

26 サツキマス(アマゴ) (サケ科)

Oncorhynchus masou ishikawae

兵庫県ランク:要調査

環境省ランク:NT

種の概要

兵庫県に分布するのはほとんどが全長20 cm程度の陸封型のアマゴで、瀬戸内海側河川の上流域に生息する。降海型のサツキマスは全長40 cm程度になる。河川では水生昆虫や水面に落下した陸生昆虫を、海では小魚などを食べる。産卵は秋で、砂礫底に雄が産卵床を掘り、雌とともに産卵放精を行う。サツキマスは孵化後、1年河川にとどまった後、秋に降海し、翌春に生まれた川に遡上する、海洋生活は約半年と短い。日本固有亜種で瀬戸内海河川と、東海、近畿、四国地方の太平洋側河川に分布する。



県内における生息状況及びその他特記事項

陸封型のアマゴは瀬戸内海側の河川に広く分布する。降海型のサツキマスも瀬戸内海側の河川に広く分布すると考えられるが、個体数は少ない。現在見られるものが在来個体群か、放流に由来するものか不明であり、遺伝的な精査が必要である。

写真提供: 田中 哲夫

保護上の留意点

本種が再生産できる環境を整えるには、親魚の遡上を妨げる堰堤などの河川横断工作物に魚道を設置する必要がある。また、産卵環境として、河川の中・下流域に伏流水の流れる平瀬（砂礫が固まっていない浮き礫状態のもの）が必要である。酸素を含んだ伏流水の存在は、受精卵の孵化率を大きく左右する。このような環境を自然な形でつくるには、土砂流入・流下サイクルの復活と、適度の出水・攪乱による瀬と洲の再配置が求められる。

県内分布

神戸市、三田市、猪名川町、加古川市、高砂市、多可町、姫路市、赤穂市、宍粟市、たつの市、市川町、神河町、佐用町、丹波市

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

主要な選定理由

人為性	激減	△
	環境	○
	捕獲	○
	遺伝	○
特殊性	特殊	
	孤立	
学術性	極限	
	限界	
	希少	

